

フィロス

ΦΙΛΟΣ 「フィロス」はギリシャ語で友達の意味

平成24年(2012)8月発行

伊勢市国際交流協会

TEL 0596-21-5549

FAX 0596-21-5642

E-mail kouryu@city.ise.mie.jp

平成 24 年度 (2012 年度) 総会を終えて

伊勢市国際交流協会会長 藤原和久

5月26日の伊勢市国際交流協会総会におきまして、再度会長に選出いただきました。今年度もよろしくお祈いします。

協会が設立されてから、昨年で20周年。これまでいろんな角度からの取り組みが行われてきました。イベント、講演会、文化交流、ホームステイの受け入れ、またフィロスの発行、日本語教室など、日常的な活動も行われてきました。これまで活躍され、また努力された会員に敬意を表すると共に、感謝を申し上げます。

私たちは、「相互理解」という言葉をよく使います。宗教、文化、習慣等の違いを乗り越えて理解し合う、ということです。とりわけ言語は、コミュニケーション手段としては、最も重要だと思います。(もちろん言語だけではありませんが。)

先日 Kotoba フォーラムという企画に出席をしました。そこでは、言語、とりわけ英語についての講演、英語のわらべ歌、また子供たちによる劇発表等が行われ、英語の必要性を再認識させられました。

英語学習のあり方が問われて久しいですが、まだまだ読み書き中心の学習方法だと思います。(改善はされていると思いますが) 話すこと、そして聞くことがコミュニケーション手段として、もっと前にあり、重要視されてもいいと思います。

今、言語を学問としてではなく、言葉として考えることがより必要であり、私たちも言葉についてもっと楽しく学習できる機会を、交流を通じて創っていければと思います。会員の皆様の御協力よろしくお祈いします。そしてお互い、世界の人たちが、その言葉によって理解しあい、少しでも平和に近づけばいいと思います。

桜寄贈 100 周年記念訪米 市長のワシントン D.C. 訪問

尾崎行雄（罌堂）がワシントンに「日米友好の桜」を送って以来、今年がちょうど百周年に当たるので、全米桜祭りを記念して、鈴木市長が恒例の日米友好使節団とワシントン D.C. へ訪ねられました。国際交流協会では市長に下記の文をご寄稿いただきました。

また、市長が同行された NPO 法人罌堂香風の名誉顧問をされている土井孝子さんの記事が 6 ページにあります。

市長ご挨拶

4 月、米国のワシントン D.C. で開催された「全米桜まつり」へ、NPO 法人罌堂香風の皆さんと一緒に参加してきました。今年は、伊勢市にゆかりのある政治家・尾崎罌堂先生が、日米友好のために桜を贈ってから 100 周年になります。

ワシントン D.C. の市長、日本大使館への表敬訪問、全米桜の女王の認定式など公式行事があり、何度かスピーチの機会を頂くことができました。

伊勢神宮式年遷宮の PR とともに、東日本大震災でアメリカの市民、政府、軍に支援して頂いたお礼を伝えさせていただきました。

このような機会を頂くことができたのも、尾崎罌堂先生のご功績と、これまで日米間の交流を育まれてきた皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

来年はいよいよ式年遷宮の年となり、これまで以上に海外からのお客様もいらっしやいます。日本の心のふるさとと呼ばれるにふさわしいおもてなしが大切となります。伊勢市国際交流協会の皆様のさらなるお力添えをお願いいたします。



D.C. 市庁舎訪問



ポトマック河畔で

代表 岡本 宗男

いせ市民活動センターの階段を上った2階左側の部屋が、いせ日本語教室です。窓は広く、外宮の杜が初夏の時期は、新緑がきれいに見えます。教室は火曜日10時と木曜日19時に開いています。

時間前になるとボランティアと学習者が車や電車、バスや自転車で集まってきます。遠い人は鶴方や五ヶ所浦から来ています。松阪や津の人もいます。挨拶をかわし、名札を付け、ロッカーを開け書類やテキストを取りだします。机を並べかえ、ホワイトボードやマジックは学習者も一緒になって準備します。

◎授業の質を高める

本年度は、学習目的をより効果的に実現するためにコーディネーターを置き、学習者と支援者を決め、同一の人が継続的に授業できるようにしました。このことにより出席確認がスムーズになり、支援者は教える個所の予習が可能となり、学習の進捗状況を正確に把握でき、授業の質が深まっています。学習者にとっても担当者が決まっているので安心して学習に集中でき、信頼関係が深まり、好評です。

学習者が連絡なしで休んだりすると、担当者が健康や安否確認の電話を入れたり、場合によっては自宅まで見舞いに訪ねていました。

また、担当者が自分の学習者だけを見るのではなく、授業の前後には他の学習者にも声をかけ、学習者が話せる機会を増やすよう心がけています。短時間ですが親交を深める大切な時間にもなっています。

現在、継続して参加しているボランティアは17名、経験の長短はありますが全員丁寧、親切、熱意をもって支援活動を行っています。さらに信頼され、学習効果の高い授業を行うために、各自の勉強はもとより、相互学習を行っています。

具体的には、授業前に勉強会を開いたり、ミーティングの時間を活用したり、新規支援者には学習者を担当する前に、いせ日本語教室としての勉強会を行っています。外部講師を招いての養成講座も開いています。

学習以外では、7月にゆかたパーティー、12月にクリスマスパーティーを開催、国際交流協会のイベントにも参加し、学習者とボランティアの親睦を深めています。

昨年は、日本語能力試験N2級に1名が合格しました。学習者の努力はもとよりですが、学習支援をしてきた教室としては、大変うれしい出来事でした。

また、学習者の中には、伊勢市国際交流協会の「世界の料理パーティー」の講師や、「国際理解講座」の講師を務めたり、各種イベントに出演したりして、活躍の場を広げています。大変喜ばしい限りです。

いせ日本語教室は、日本語を学びたい人々の学習支援を今後も続けていきます。今後とも、ご協力をよろしくお願いします。

お花見 パーティ

桜の満開のもとパーティを楽しむ仲間たち



宮川堤にて



ゆかたパーティー

会員 大友 明里

7月5日木曜日に、いせ日本語教室にてゆかたで交流パーティーが開催され、日本語学習者、ボランティアスタッフなど、約60人が参加しました。ゆかたで交流パーティーでは、参加者たちはゆかたを着たり、七夕の飾り付けで短冊に願い事を書いたり、伊勢音頭を踊ったりして、日本の夏の風物詩を楽しんでいました。また、参加者たちはそれぞれの国の料理等を持ち寄り、普段はなかなか口にするのでできない外国の料理を味わうこともできました。

私は今回、ゆかたで交流パーティーに初めて参加させていただきました。普段の教室では、あまり学習者やボランティアスタッフとも多くのことをお話しすることが少ないのですが、パーティーを通して会話を楽しむことができました。ゆかたの話やどの料理を作ってきたのか、お互いの近況など様々な話題で盛り上がりました。また、各国の料理もおいしくいただきました。辛い料理や初めて出会う味もあり、改めて世界の料理の豊富さというものを感じました。ゆかたで交流パーティーは、ゆかたを着て日本の夏を体験してもらうという主旨ですが、私自身、近年はゆかたを着る機会が減ってしまい、久しぶりにゆかたを着ました。久しぶりにゆかたを着られて、嬉しかったし、夏だなと感じました。

ゆかたで交流パーティーに参加し、様々な国や年代の方々とお話しして、日本の文化や世界の文化に触れ、いろいろな価値観に出会えました。

私にとって、このパーティーに参加したことはよい刺激に繋がったと思います。



「熊野古道を歩こう」に参加して

会員 東山 隆子

去る6月17日(日)、イベント参加者総勢54名(外国人29名、日本人25名)は朝8時、世界遺産である熊野古道は馬越峠を目指し、高まる胸の鼓動をおさえつつバスに乗り込みました。心配された雨もすっかり上がり、補助席まで満杯のバスは一路熊野路へと、なぞなぞや早口言葉で笑いが絶えない車内は、楽しい一日の旅を予感させました。



紀北町へ到着し、出発地点で選んだ杖を右手に、日本語ガイド、英語ガイド、自由行動の3グループに別れ、いざ出発。私は英語のガイドさんの説明を外国人の方と共に聞き、「早く馬越峠を歩きたいなあ」と胸を躍らせていました。しかし歩を進める内に、これはもしかして歩くのではなく、「登る」のが正しいのでは?と気づいた頃には、全身から

汗がしたたり落ちていました。古の旅人に思いを馳せ、苔むす石畳に旅情をかきたてられるはずが、そんな余裕はなく、とにかく前に進む事しか頭にありませんでした。1時間程歩いたところで待ちに待った、お弁当の時間!私はこれに惹かれて参加したようなもの、これほどおいしいお弁当が今までにあったらと思う位においしかったです。その後はそのまま下るチームとさらに天狗倉山(標高522m)の頂上を目指すチームの二手に別れ、私はこともあろうに頂上コースを選択しました。途中何度かこの選択を後悔する事もありましたが、なんとか頂上までたどり着き、そこから海沿いの尾鷲の町を見下ろした時の爽快さは忘れられません。下りは日に2回はこの山に登るといふ健脚の持ち主であるガイドさんに導かれ、滑落する事なく無事に下山できました。そして麓の喫茶店で飲んだ山桃ソーダジュースがそれまでの疲れをいっぺんに吹き飛ばしてくれました。

苦しい時に声をかけ合ったり、手をさし伸べたりする気持ちは世界共通、どこで生まれ育っても「人間」である事に変わりなく、その声や気持ちが国際交流という相互理解の場を産み出すのだなと実感したのが、今年の4月からこの会に参加した私の正直な感想です。

最後になりますが、この行事を企画運営して頂いた方々、本当にありがとうございました。

全米桜祭りに参加して

会員 土井 孝子

憲政の神様と謳われた罌堂翁がワシントン D.C. に三千本の桜の苗木を贈ってから今年で100年になります。毎年春になるとポトマック河畔には見事な桜が花を咲かせており、ワシントン D.C. の方々が日米親善の証として大切に守って頂いております。

平成七年に「全米さくらの女王」が伊勢市の罌堂記念館を訪問されたのをきっかけに、罌堂が寄贈した桜の返礼にと贈られた花みずきにちなんで初代「花みずきの女王」を選出し、平成十一年にワシントン D.C. で開催される全米桜祭りに初めて参加致しました。過去五回の訪問を経て、現地での罌堂精神の啓発と伊勢のアピールに努め日米親善交流を深めて参りました。今年は百周年という特別な年にあたり伊勢市長も初めて同行され、とても光栄に思っております。

全米桜の女王をルーレットで決めるガラパーティーの開会式では、藤崎駐米大使、石原都知事に続いて伊勢市長がスピーチされ、英語で被災者への支援のお礼と、来年の伊勢での御遷宮のPRなどをされ、素晴らしい挨拶でした。

桜祭りパレードでは振袖姿の花みずきの女王をはじめ六人の親善大使の方々が市のメインストリートの花吹雪と大歓声に迎えられてお披露目をさせていただいたことも感動しました。

罌堂が九十四才の時に詠まれた「人生の本舞台は常に将来にあり」という言葉がありますが、私たち罌堂香風もまさに将来にむけて、罌堂翁の心を伝えるに当り、地域はもとより全日本、全世界へと発信してまいりたいと思っております。



タフト大統領の墓地訪問



ガラパーティーで



ワシントン D.C. 市庁舎にグレイ市長を表敬訪問



第70回

世界の料理パーティー ブラジル編

会員 上野 正美



8月5日(日曜日)福祉センターにて、ブラジルのエスメラルダさんと、息子さんのリカルドくんがブラジルの家庭料理を教えてくださいました。

チキンのムネ肉を開いてレモン汁に浸し、しっかり塩こしょうをしてから、ヤシの新芽のピクルス(パルミット)とオリーブや、細切りのにんじんベーコンを芯にして日本の巻き寿司のように巻いて、オーブンで焼いたもの、チキンをさっと油で炒めてから水を入れ、しっかり火が通ったら手でさいておき、その肉のゆで汁でにんじんとジャガイモをゆでて、コーンや、生のピーマンなどと一緒にマヨネーズであえたサラダ、そして写真

にあるコンデンスミルクから作るプディングを教えてくださいました。

息子さんのリカルドくんはまだ高校生ですが、おかあさんにとってなかなかよくて、理想の親子ではないか、と感じさせられます。

おかあさんが日本語をあまり得意としていないところをリカルドくんがしっかりフォローして見ていてとても気持ちよく感じました。

8人の一般会員といっしょに28人でたのしく教えていただくことができました。

食後にはリカルドくんがブラジルのめずらしい鳥や、カーニバルの写真、リオデジャネイロそばのすばらしくきれいな海岸などをスライドで紹介してくれて、伊勢にいなながらブラジルを観光しているような、気分をさせてくれました。



料理もみなさん、ブラジル料理はいったいどんなものか、想像できなかったけど、今日のこの料理なら、自分でも作れる…と話されていました。

当日はエスメラルダさんにご主人もにこにこしながら見守ってくださいました。

ほんとうにありがとうございました。



イベント企画部会

伊勢市国際交流協会総会後会員交流会 (H24.5.26) 「桂三輝 (かつら さんしゃいん) 氏落語講演会」のアンケート結果

桂三輝氏プロフィール：カナダトロント出身、戦後日本初の外国人落語家、2008年桂三枝に入門、2009年大阪芸大大学院舞台芸術研究科修士課程卒、2011年三重県住みます芸人に就任。NHKをはじめ、各テレビ局に出演。現在は中京テレビ、三重テレビにレギュラー出演

アンケート集約：参加者は10代、20代、30代からの若い方から60代、70代以上の方まで幅広く参加。講座については、期待以上が圧倒的多数でした。

講演をきいての感想の中から一部ご紹介します。「回答者 38名」

- 日本人よりも日本語をよく知ってみえます。日本人としても反省、勉強にしろ、もっと色んなことにチャレンジしなければと思います。
- 異国の地で自分のやりたいことを達成する為に努力されている三輝さんの生き方に感心。
- コミカルな日本語の話し方、日本文化を覚え、落語に反映している素晴らしい外国人。
- 言葉について色々の問題を見事に楽しく、笑いの内に実践の成果として参加者一同に感銘深く与えられたと感じました。

その他、ユーモラス、ユニーク、ユニバーサル、ユースフル、大いに笑った、感動、熱演、努力、ええ感じの関西弁、上手な大阪弁、頑張って！伊勢に長くいてご活躍ください！等のご意見がありました。



編集後記

本年は琴堂尾崎行雄翁が東京市長在任中に日露戦争収束に当って尽力のあった当時の米大統領に報いるべく桜の苗木3000本を贈って正に100周年であり、この年に当たり、伊勢市から恒例のはなみずきの女王使節団訪米に、伊勢市長のご参加もあり、フィロスにも御寄稿戴きました。又この交歓会の中核的活動を長年勤められた土井さんからも貴重なレポートを頂きました。お二方には深く御礼申し上げます。

当国際交流協会発足当初には初代岩本会長ともども会員数名が琴堂記念館へ馳せ参じ、全米桜女王ご一行との交流（植樹祭、座談会など）の場を得たのでした。それより現在にいたるまでご指導頂いた土井さんは当時の琴風会から現在のNPO法人琴堂香風の中核にあってご多忙の中、大変ありがとうございました。

酷暑のみぎり、会員の皆様がたにはくれぐれもご自愛の程をと祈念致します。(H.24.7.30)

フィロス 第57号

編集委員：池山、稻生、片山、喜多、藤原、三宅
顧問：岩本